

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
M212S301		小児看護方法論Ⅱ (Child Health Nursing Practice Ⅱ)					小児看護学							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	2	3	医学部看護学科	前期	水3,水4	日本語		複数(共同)						
担当教員	氏名 幸松美智子・江藤千晴													
	E-mail yukimats@ 内線 5075													
授業の概要	健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、健康障害のレベルに応じた看護が提供できるように、小児看護の基盤となる諸理論および専門的知識を学ぶ。 小児および家族の権利を尊重し、擁護するための知識および倫理的態度を身につける。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	健康障害が子どもとその家族に及ぼす影響について説明することができる							○			○			
目標2	小児医療の現場で生じ易い子どもの権利侵害と権利擁護者としての看護職の役割を説明できる							○			○			○
目標3	急性期の子どもと家族の特性とそれに応じた看護について説明できる							○		○				○
目標4	周術期や隔離・活動制限の子どもと家族の特性とそれに応じた看護について説明できる							○		○				○
目標5	慢性期の子どもと家族の特性とそれに応じた看護について説明できる							○		○				○
目標6	ターミナル期の子どもと家族の特性とそれに応じた看護について説明できる							○		○				○
目標7	障がいをもつ子どもと家族の特性とそれに応じた看護について説明できる							○		○				○
目標8	事例に対して科学的な根拠に基づく看護判断が下せ、問題を明確化できる							○		○				○
目標9	事例の看護上の問題に対して、科学的根拠に基づいた看護計画の立案ができる							○		○				○
目標10	小児看護学の課題と展望										○	○	○	○
各DPへの関連度(計10)								10		10	10	10	10	10
授業の内容														
1	子どもの認知発達に応じた病気への理解を促進する看護(ピアジェの認知発達理論に基づく)													
2	子どもの認知発達に応じた病気への理解を促進する看護(ピアジェの認知発達理論に基づく)													
3	病気が子どもの自我発達に及ぼす影響と看護(エリクソンの自我発達理論に基づく)													
4	子どものストレスの特徴とコーピングを支援する看護(ストレス・コーピング理論に基づく)													
5	子どものストレスの特徴とコーピングを支援する看護(ストレス・コーピング理論に基づく)													
6	病気の子どもの闘病意欲を高める看護(プレパレーション・遊び)													
7	病気の子どもの闘病意欲を高める看護(プレパレーション・遊び)													
8	急性期における子どもと家族への看護(事例を用いた看護過程の展開)													
9	急性期における子どもと家族への看護(事例を用いた看護過程の展開)													
10	急性期における子どもと家族への看護(事例を用いた看護過程の展開)													
11	急性期における子どもと家族への看護(事例を用いた看護過程の展開)													
12	急性期における子どもと家族への看護(事例を用いた看護過程の展開)													
13	急性期における子どもと家族への看護(事例を用いた看護過程の展開)													
14	急性期における子どもと家族への看護(事例を用いた看護過程の展開)													
15	各期(回復期・在宅移行期・慢性期・在宅期・ターミナル期)にある子どもと家族への看護													
16	各期(回復期・在宅移行期・慢性期・在宅期・ターミナル期)にある子どもと家族への看護													
17	各期(回復期・在宅移行期・慢性期・在宅期・ターミナル期)にある子どもと家族への看護													
18	各期(回復期・在宅移行期・慢性期・在宅期・ターミナル期)にある子どもと家族への看護													
19	各期(回復期・在宅移行期・慢性期・在宅期・ターミナル期)にある子どもと家族への看護													
20	先天性疾患・障害のある子どもと家族への看護													
21	先天性疾患・障害のある子どもと家族への看護													
22	小児看護の課題と展望													
23														
24														
25														
26														
27														
28														
29														
30														
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○ ○ ○ ○	A:小テスト・アクションレポート B: 発問、グループ検討 C: 事例検討 :課題レポート(社会改革に向けた提言)				工夫その他の	・動画を用いて病気の子どもと家族の置かれた現状の理解を助ける ・事例分析を用いた講義など、学生が主体的に授業に取り組めるようにする						

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	今回の学習内容について配布するアクションレポートで予習する（10h）。 課題事例の看護過程の展開（アセスメント・計画立案等）を行う（34h）。											
	事後学修	授業で学習した内容に関連したアクションレポーを用いて授業の復習をする（10h） 課題事例の看護過程の展開（アセスメント・計画立案等）の修正行う（34h）											
	想定時間合計	88											
教科書	中野綾美（編）：ナースングラフィカ　小児の発達と看護　小児看護学①、メディカ出版、2023年 中野綾美（編）：ナースングラフィカ　小児看護技術　小児看護学②、メディカ出版、2023年												
参考書	その都度提示する												
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	事例に対する看護計画立案	30%	○	○	○	○							
	試験	70%	○	○	○	○							
注意事項	講義で配布されるアクションレポートの提出をもって出席状況の確認を行う												
備考													
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の 有無	○												
教員の実務 経験	幸松美智子（看護師）江藤千晴（看護師・助産師）												
実務経験を いかした教 育内容	理論や最新の知見だけを講義の中で教授するのではなく、実務経験の中で修得した知識・技術（臨床知）も講義の中や演習時に役立てる。実際の臨床でよくある看護場面や症例を用いて事例学習を実施し、知識の統合を図る												